

港湾振興便り



2021. 12

第175号

:

目 次

*:**

1 ポートエッセイ — 一年間を振り返る —
～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

2 トピック

- 「ザ・シンポジウムみなと in 釧路」が開催されました
(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)
- 講演会「カーボンニュートラルポート形成に向けた能代港シンポジウム」を開催
(東北地方整備局 秋田港湾事務所)
- 災害発生時の円滑な行動を目指して～首都直下地震防災訓練を実施しました～
(関東地方整備局 港湾空港部)
- 田子の浦ポートフェスタ 2021 & 竹かぐや in 田子の浦港
(富士市 産業政策課 港湾振興室)
- 御前崎港久々生海岸の清掃を実施しました
(御前崎市役所 建設経済部)
- 世界津波の日に「近畿地方整備局・堺市合同総合防災訓練」を実施
(近畿地方整備局 港湾空港部 近畿圏臨海防災センター)
- 「海洋ごみ問題」について学ぶオンラインイベントを初開催
(四国地方整備局 松山港湾・空港整備事務所)

3 お知らせ

◇イベント名: 第14回KOBEMiなとのガラス絵大賞

:

1 ポートエッセイ — 一年間を振り返る —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

:

年の瀬も押し迫り、今年も残り僅かとなった。

この一年間は、デルタ株の蔓延により、「新型コロナウイルス感染症」の拡大は昨年以上のものとなった。

特に、7月から8月に掛けて感染が拡大した第5波では我が国の1日の新規感染者数が25,000人を超えるまでに至った。

現在は、200人以下で推移し、第6波が懸念されるものの感染拡大は少し落ち着いてきたようだ。

この様な中、当連合会の通常総会は昨年に続き、今年も書面による議決権行使とさせていただいたことは、コロナ禍であるとはいえ、一昨年の豊橋市で「第53回通常総会」を開催してから、2年間、会員が一堂に会する機会と貴重な情報交換の場を提供できない状況となった。

来年こそはという思いのなか、2022年開催の「第56回通常総会」は、釧路市を開催地としており、3年ぶりに多くの会員が顔合わせ、3年分の情報交換ができるような総会と交流会が開催できることを願う。

ところで、昨年から続く国際海上輸送の不安定化が今年も続いており、先般、(株)日新からロサンゼルス港及びロングビーチ港の沖合におけるコンテナ船の沖待ち状況の動画の提供を受けた。

そこには、おびただしい数のコンテナ船が沖合で滞船している状況がはっきりと映し出されており、この映像から、これまで言われていた北米航路における港湾の混雑状況の深刻さがはっきりと見て取れた。

この状況は、ロサンゼルス港及びロングビーチ港だけのことではなく、上海港や寧波港においても同様に起きており、世界の主要港湾を中心に多くの港湾で混雑が常態化していると伝えられている。

この状態が暫くは続くこととされていることから、今後も国際物流の混乱は続くものと懸念される。

また、ここにきて原油の高騰も加わり、世界の経済活動に大きな影響を与えてはじめており、我が国においても、多くの商品などの価格上昇が伝えられるなか、更なる上昇に拍車がかかることが心配される。

まだまだ厳しい状況が続くが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が落ち着いたこのタイミングを捉え、11月に発足した岸田新内閣から着実に経済政策を進めていただくことで、2022年が明るいものとなるよう願うとともに、日本の経済と暮らしを支えている物流の要である港湾から、社会経済活動の確実な回復が進むよう会員各位からのご支援をお願いしたい。

最後に、2022年は、会員各位にとって良い年になりますよう祈念いたします。

:

2 トピック

:

●「ザ・シンポジウムみなと in 釧路」が開催されました

(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)

令和3年11月25日(木)、第29回目となる「ザ・シンポジウムみなと in 釧路」が釧路市観光国際交流センターを会場として、「ザ・シンポジウム」実行委員会主催により開催されました。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会場のほか並行してライブ配信も行われました。

テーマを、「釧路港と東北北海道の将来像～国際バルク戦略港湾とこれからの戦略的な産業振興～」とし、全国に先駆けて国際バルク港湾の整備が完了、供用が開始され、約200億円の民間投資が誘発されているほか、供用後の飼料生産量増加と海上輸送コスト低減が現れてきている釧路港において、改めて国際バルク戦略港湾の整備効果を総括すると共に、酪農・畜産、食や観光分野の振興と港との関わりを見据え、港湾の果たす役割や将来像について、基調講演とパネルディスカッションが行われました。

基調講演では、釧路市副市長の伴篤様から、「国際バルク戦略港湾 釧路港の取り組み」と題し、バルク港湾の整備の必要性や釧路港の優位性、今後の課題となる複数港寄り輸送体制の構築などについてご講演をいただきました。

続くパネルディスカッションでは、「釧路港と酪農・畜産、食と観光」をテーマに、フリーアナウンサーの渡辺陽子様をコーディネーターを務めていただき、釧路市長の蝦名大也様、鶴雅ホールディングス(株)取締役副社長の西大希様、酪農家・YouTuber・JA 阿寒青年部長の浅野達彦様、釧路みなとオアシス協議会おもてなし部会長の金子ゆかり様、釧路港公立大学地域経済研究センター長の中村研二様のパネリスト5名でご議論いただきました。

はじめに、蝦名釧路市長から、世界から見た釧路港の位置や背後圏である東北北海道との関わり、クルーズ船による経済波及効果への期待など釧路港の現状認識についてご提供いただき、各パネリストからは、国際交流における釧路の役割や見られ方、地域内での多分野との連携における発展や市民活動における一体感の創出、経済や観光の拠点となる釧路港の目指す姿など、釧路港への要請や将来像についてお話いただきました。

このシンポジウムには、会場に210名、YouTube でのライブ配信には190名となる多数の参加となりました。釧路港と東北北海道の将来像を皆様と共有し、今後も活発な取り組みとなることが期待されます。



基調講演の様子



パネルディスカッションの様子

●講演会「カーボンニュートラルポート形成に向けた能代港シンポジウム」を開催

(東北地方整備局 秋田港湾事務所)

2050年カーボンニュートラル実現に向け、各地でCNP形成の動きが加速化する中、能代港湾振興会及び能代市は、能代港におけるCNP形成の可能性や課題を共有し、地域の脱炭素実現と関連産業の振興に対する意識醸成と取組促進を図ることを目的として、令和3年11月25日(木)、カーボンニュートラルポート形成に向けた能代港シンポジウムを開催しました。シンポジウムでは県北の自治体や企業の担当者、県・直轄職員など約50名が聴講しました。

はじめに、主催者挨拶として齊藤能代市長が「厄介者であった強風が、今や洋上風力発電の適地として追い風となっていることから、能代市をエネルギーの街として実現させたい」との想いを述べられました。

はじめに「カーボンニュートラルポート(CNP)の形成に向けた取組」と題して、本省港湾局の西尾産業港湾課長よりご講演いただき、CNPの目指すべき姿として、洋上風力の余剰電力で水を分解してつくる水素や輸入する水素の受け入れ環境を整えること、また荷役機械等の港湾オペレーションの脱炭素化をはじめ、周辺の火力発電所等の立地産業と連携を図り、港湾地域として面的に脱炭素を推進していく考えを示されました。

そのほか、日本CCS調査(株)取締役総務部長の川端氏、東北電力(株)能代火力発電所所長の清野氏、秋田県建設部の鮫島港湾技監による講演が行われました。

講演後の質疑応答においては、CNP実現のため金融機関が果たすべき役割等の質問のほか、能代近海でのCCS(CO₂を回収し地下貯留する技術)の事業化への期待や秋田県への先端技術を持つ企業誘致の期待等、CNPの形成に向けた活発な質問や意見が交わされました。



本省港湾局 西尾産業港湾課長 講演の様子
演題:「カーボンニュートラルポート(CNP)の形成に向けた取組」

●災害発生時の円滑な行動を目指して～首都直下地震防災訓練を実施しました～

(関東地方整備局 港湾空港部)

関東地方整備局では、首都直下地震などの大規模災害発生に備え、11月5日(金)に防災訓練を実施しました。

港湾空港部では、川崎市にある東扇島地区基幹的広域防災拠点にて訓練を行い、16機関・団体、約270人が参加しました。

訓練を実施した「東扇島地区基幹的広域防災拠点」は、首都圏において首都直下地震などの大規模災害が発生した場合、陸路・海路・空路を活用した緊急支援物資の輸送拠点となると共に、警察・消防・自衛隊などの広域支援部隊の活動拠点となります。

今回の訓練では、東扇島地区基幹的広域防災拠点等の応急復旧や、荒川河川敷等で同時開催している道路・河川の訓練と連動した緊急支援物資の輸送訓練、ヘリコプターによる非常参集訓練、緊急確保航路啓開訓練等を実施しました。



防災拠点等応急復旧訓練の様子



非常参集訓練の様子

● 田子の浦ポートフェスタ 2021 & 竹かぐや in 田子の浦港

(富士市 産業政策課 港湾振興室)

11月21日(日)、「田子の浦ポートフェスタ2021」を開催しました。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、飲食店の出店などは行わず、オーシャンプリンセス(協力: 鈴与(株)、田子の浦埠頭(株))、帆船みらいへ、水陸両用 KABA バスの乗船体験を完全予約制で行いました。

全便で合計約 500 人の定員に対し、延べ 2,400 人以上の申込みがあり、抽選で選ばれた乗船者は、普段はできない海上遊覧や船上体験企画を楽しみました。

また、開催月である 11 月の 1 ヶ月間、港周辺のにぎわいづくりに向けた新たな試みとして、臨港道路の一部を竹灯籠とフラワーポットで彩る「竹かぐや in 田子の浦港」を実施しました。

月明りに照らされた富士山と工場夜景に竹灯籠の明かりが加わり、見学者は幻想的な眺めを楽しみました。また、インスタグラム等 SNS でも多くの人に写真を投稿していただき、田子の浦港の新たな魅力発信に繋げることができました。





●御前崎港久々生海岸の清掃を実施しました

(御前崎市役所 建設経済部)

駿河湾の入口に位置する御前崎港は、昭和 46 年(1971 年)4 月に、関税法に基づく国際貿易港として開港の指定を受け、本年で 50 年の節目を迎えました。

開港 50 周年を記念して、記念式典や各種船舶の寄港・一般公開などの記念行事を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大状況を踏まえ、各行事は中止としました。

一方で、開港 50 周年を契機として、50 年後の御前崎港を見据え、国、静岡県、地元関係者参画のもと、「御前崎港の将来を考える勉強会」が設置・開催され、海洋環境の保全やブルーカーボン(海洋生態系により吸収・貯留される炭素)の活用をテーマに、活発な意見交換が交わされました。

このような中、12 月 2 日に御前崎港開港 50 周年記念事業実行委員会と御前崎港湾建設工事安全協議会の共催で御前崎港内の久々生(くびしょう)海岸の清掃を行いました。

清掃活動には約 70 名の関係者が参加し、流木、その他ゴミを含め約 67.5m³(2t ダンプトラック 45 台分)を撤去しました。

今後も関係者と海岸環境保全に取り組むとともに、御前崎港の物流・人流で賑わうみなとまちづくりに取り組んでいきます。



海岸清掃状況

●世界津波の日に「近畿地方整備局・堺市合同総合防災訓練」を実施

(近畿地方整備局 港湾空港部 近畿圏臨海防災センター)

「世界津波の日」「津波防災の日」である11月5日(金)に堺泉北港堺2区基幹的広域防災拠点において、南海トラフ巨大地震の発生を想定した「近畿地方整備局・堺市合同総合防災訓練」を37機関・約700名の参加者のもと実施しました。

本訓練は、近畿地方整備局近畿圏臨海防災センターが運用を開始した平成24年より毎年実施しており、今年も航路・道路の啓開や緊急支援物資輸送を行う「堺泉北港堺2区基幹的広域防災拠点機能訓練」と津波避難や漂流者救助等を行う「津波避難・消火救護訓練」をそれぞれ実施しました。

近畿地方整備局では今後も防災力向上のため、訓練内容の充実や防災関係機関の連携強化に努めます。

※訓練の様子は近畿地方整備局港湾空港部ホームページ内、近畿圏臨海防災センターのサイトでも配信しています。http://www.pa.kkr.mlit.go.jp/kinki_rinkai_bousai_center/kunren.html



近畿地方整備局神戸港湾事務所
「クリーンはりま」による航路啓開訓練



近畿地方整備局職員が操縦する
バックホウによる道路啓開訓練



近畿地方整備局職員が運転するフォークリフト
によるエアテント内での緊急支援物資輸送訓練



近畿地方整備局和歌山港湾事務所「はやたま」
による海上からの緊急支援物資輸送訓練

●「海洋ごみ問題」について学ぶオンラインイベントを初開催

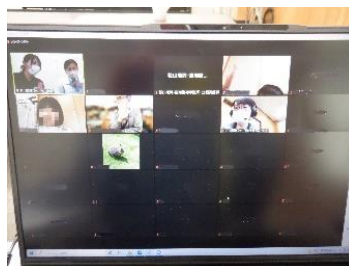
(四国地方整備局 松山港湾・空港整備事務所)

令和3年11月20日(土)、松山市が例年開催している「まつやまミニ環境フォーラム」の一環として、海洋ごみ問題をテーマに、オンラインイベントを開催しました。「まつやまミニ環境フォーラム」としては初のオンライン開催で、当日は当事務所の事業概要の紹介をはじめ、普段見ることが出来ない港湾業務艇「くるしま」による海上パトロールの様子・海洋環境整備船「いしづち」による浮遊ごみ回収の様子を配信(事前収録による映像配信)しました。また、イベント終盤に質問コーナーを設け、クイズを交えながら事前にいただいていた質問について回答しました。「1日どれくらいのごみが回収されるのか」、「天候などによって浮遊ごみの量は変わるのか」など、多数の質問をいただき、世代を問わず海洋ごみ問題に関心をもっていただいていることが分かりました。

引続き、当事務所においては、海洋環境の保全、並びに安全な船舶航行環境を確保するため、海洋環境整備船「いしづち」による浮遊ごみの回収を行って参ります。



▲海上パトロール映像の一部



▲質問コーナーにて参加者がクイズに答えている様子



▲事業概要の紹介

URL: <https://www.pa.skr.mlit.go.jp/matsuyama/news/genkou/20211126.html>

